

職場問題を解決しよう！シリーズ⑫

私たちの事故・ミスは徹底的に責任追及！ 管理者には甘く？ 事故隠蔽は許さないぞ！

7月30日夜、翌日早朝発の列車として使用するため、新横浜駅に到着した列車のパンタグラフが下がらない事象が発生しました。運転士が調査したところ、12号車の配電盤にあるコックが閉まっているのが発見され、定位に戻したところパンタグラフは無事下がりました。この影響で14分の遅れが発生しました。このコックは通常扱われるものではなく、誰かがさわらなければ勝手に閉まるはずがありません。なぜコックが閉まっていたのでしょうか？

実はこの車両は、当日の昼間、東京第一車両所構内で「車掌養成」の訓練用として使用されていたことが判明しています。この訓練で何が行われたのかはわかりませんが、訓練後の確認がどうであったのかなど、事故原因の究明がされなくてはなりません。

通常であれば「重大なヒューマンエラー発生」などと大々的に掲示を出すはずですが、今回の件に関しては沈黙しています。さらに、当該運転士に対して指令員は「乗継通告券には記載しなくてよい」と指示しているとのこと。「車掌養成」の訓練には運輸所の管理者も立ち会うそうです。これらのことから推察すると、まさか管理者の後確認のミスが原因ではないか？事故隠蔽？と疑いたくなります。このことが事実であれば重大なことです。

私たち社員の事故や作業ミスに対しては、たとえ些細なものであっても、「見せしめ」にさらされ、時系列等報告書の提出、始末書の強要など徹底した責任追及が行われます。一方で「管理者のミスは隠す」ということではまったく歪んでいます。

皆さん、責任追及で事故はなくなりません！職場から共に声を上げていきましょう！

訓練後にパンタグラフが下がらない！
ヒューマンエラーか？ 会社はなぜか沈黙……？